

多面的機能支払(農地・水・環境保全向上対策)の紹介

矢川環境保全会（名張市）

設 立 2008年（平成20年）
 取り組み面積 田：29ha
 主要施設 開水路：6.4km 農道：4.7km
 ため池：7か所
 構 成 員 農業者46名 非農業者31名
 その他4団体

■活動の基本

1. 矢川地区の農業資産・環境保全の観点から農用地、農道、水路、景観形成、世代間交流などの事業の取り組み。
2. 農業従事者の高齢化、担い手不足に伴う諸問題の対応。

■活動内容

○景観形成

地域を走る電車から見える農地法面へのシバザクラ植栽（約500m）や、休耕地への菜の花の植栽などの効果で、最近ではビュースポットとしてSNS等で紹介され鉄道カメラマンや観光客も訪れるようになりました。

そのほか、つつじの植栽や雑木の伐採、プランターの植栽なども行っています。女性環境役員も加わり、女性の



シバザクラの植栽と景観保全



シバザクラの植栽と景観保全



ビュースポットとなった遊休農地の菜の花

視点も取り入れ景観形成のパワーアップを考えています。

○ため池の保全

地区内にあるため池の保全活動を推進中。日常点検及び改修工事を行い、保全管理に力を入れ、大雨や台風等の非常時の防災力を向上しています。

○ホタルの保護活動

“ほたるの里”の復活へ向け、水路でのホタル繁殖活動の取組みで、ホタルの生育循環を地元の蛭研究家から学び実践し、地区をあげての水路掃除や、整備などを行う一方、両端の小石は残す、苔はある程度残す…等ホタル生育循環の取組みを行なっています。

コロナ禍において、行事が中止になっておりますが、通常では世代間交流事業として、ホタルの鑑賞会なども行います。



ホタルプロジェクトの看板

○広報新聞の作成

平成24年度から啓発運動として「環境新聞やがわ」を毎年発行。5月の「環境総会」で全戸に配布をしています。

また、毎月の環境状況を「矢川区事項書」に掲載しており区民の理解と協力を得ています。



環境新聞やがわ 2020 年度版

○その他

毎月（原則）の定例役員会議は、当初計画の進捗状況と推進課題を確認しながら進めています。



区・環境整備 水路の泥上げ・整備

■目指すべき姿

《多面的機能支払交付金》を活用し、

●農家の担い手不足により、担い手だけで全ての農地を管理することは困難であるので、農家、非農家が互いに補完し協力できるような体制を構築する。

●農業用水路・ため池の補修・保全を計画的に行い、将来の維持管理が少しでも省略できるような取り組みを進める。

●地域外の人が訪れる景観スポットなどの構築、及び有休地の有効活用に取り組む。